

(兼題)

「皿」

今岡 健柳 選

佳句

独り居の小皿たたいて酒を飲む
大皿に好物盛った喜寿祝い
床の間に陣取っている大絵皿
私の好みの色を盛る絵皿
大皿に盛る海の幸山の幸

らんまん

鏡子

洋子

ちかし

博子

取り分けた銘銘皿にある個性

竹治ちかし

地

古希祝うピチピチ跳ねる皿の鯛

多久和博子

天

のと鳴らす具だくさん盛り丸い皿

桐原 洋子

軸吟

思い出の詰まった皿がよく動く

今岡 健柳

(兼題)

「ユーモア」

伊藤 玲峰 選

佳句

見合席ユーモアまじえて気をほぐす
ユーモアの溢れる友に救われる
ユーモアを時々出して生き延びる
ノリノリの気分ユーモアひとつ出る
ユーモアも入れて喜ぶ教え方

のぼる

たえこ

祐次

たえこ

洋子

ユーモアの中にヒントが隠れてた

小豆沢歌子

地

ユーモアに障子襖も大笑い

小豆沢歌子

天

ユーモアが一杯住んでいるノート

岡 あきら

軸吟

先生の渾名^{あだな}ユーモア利いている

伊藤 玲峰

(兼題)

「届く」

吉川らんまん 選

佳句

走者より先イチローの球届く
手の届く位置に鉛筆メモ用紙
良い知らせ届け届けと願かける
僕の城チエアから全部手が届き
近過ぎる君に届かぬ恋心

瑞人

桂子

あけ美

あきら

ちかし

人

百歳に届け元気な九十坂

岡田 祐次

地

炒り豆の臭いが届き福は内

伊藤 玲峰

天

届く足スライディングに期待する

西坂 瑞人

軸吟

誕生日百万本のバラ届く

吉川らんまん

(席題)

「雪」

竹治ちかし 選

人

新雪によるこび遊ぶ風の子よ
鯨幕空も悲しみ雪が舞う
雪景色さえも奪った温暖化

今岡 健柳

伊藤 玲峰

錦織ゆきこ

軸吟

蛍雪も知らぬ子供の手スマホ

竹治ちかし